



【あいぬのまるきぶね】

アイヌのまるきぶね

いい く とし そう
椎久年蔵が製作

このまるきぶねは、北海道八雲町の椎久年蔵が、大正末期に製作し、有楽部川で使用したものを昭和9(1934)年頃、北海道大学農学部博物館に寄贈したものである。

船底は浅いため水深の浅い川や沼で使用されたものである。深い川や沼では、もっと深さがあり、安定度の高いものが用いられる。

まるきぶねは、ヤチダモ、センノキ、シナノキ、ドロノキ、シコロおよびカバなどの木をくりぬいて製作されたものが多い。

神聖なふねの製作

ふねの製作は、アイヌにとっては神聖な仕事で、作業は、まず山と木の神にお祈りをすることから始まる。切り倒した木の株には「あなたを舟神にしますから、この舟に災害のないように、お護りください」とお祈りをする。

細工にはモッタという小さいクワ型の彫り具を使う。ほぼふねの形を整えてから、鋭利な刃物で仕上げる。

完成すると、ふねにイナウ(幣)のチップイナウをつけ、切り株にはシコロカムイナウをささげ、ふねのつくりのお礼とふねの安全を祈るカムイノミ(お祈りの儀式)をする。

概要

○長さ……………6.05m ○舟べり厚さ……………2cm
 ○最大幅……………49cm ○深さ……………18cm
 ○高さ……………20cm

● **制作年代:** 大正末期

● **指定年月日:** 昭和 32 (1957) 年 6 月 3 日

● **所在地:** 札幌市中央区北 3 条西 8 丁目
 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
 耕地園ステーション植物園

● **お問い合わせ:** 国立大学法人北海道大学
 北方生物圏フィールド科学センター
 耕地園ステーション植物園 ☎ 221-0066

● **観覧形態:** 観覧可(常設展示)
 ※開館状況は施設のHPをご確認ください。

● **観覧時間:** 9時00分～16時30分
 (入園は16時00分まで) (4月29日～9月30日)
 9時00分～16時00分
 (入園は15時30分まで) (10月1日～11月3日)

● **休館日:** 月曜日(祝日の場合は翌日)、
 冬期間 (11月4日～4月28日)

● **観覧料:** 植物園入園料
 大人420円(30人以上団体350円)
 小・中学生300円(団体240円)

● **アクセス**
 地下鉄: さっぽろ駅10番出口、大通駅2番出口、
 西11丁目駅4番出口より約800m
 バス: 「北5西7」(JRバス・中央バス)
 「北1西7」(JRバス・中央バス・じょうてつバス)
 より約400m

